京城新聞

忠州旅行記（六）

三十日忠州 渭風

京城を出て今日は始めて馬に乗る事が出來る、伍長の心を盡したる待遇に深く感謝の意を表して猿が乗つたやうな格恰で馬に乗つた、馬の鞍は兩側に太い藁つとを結付け其の上に四つに折曲げた蒲團を載せ其れに跨つた、二本の足は馬の頸の兩側にぶら下がつた手綱は鞍坪に五寸許りの綱を付けてあるそれに命大事に、しがみ付いて居るのであるが、若し落馬するときは何の役にも立たぬ云はば心安めの綱である、伍長は此の分ならば天氣も大丈夫だし可成道は遠いで夕暮れにならぬやふに忠州に御着きなさい、宿は昨日の兵を付けたいが御承知の通り一人の餘裕もないのだから、[illegible]さ一所にして下さいと云ふ、中食は御不自由であらうと例の麥飯に鷄卵二三ツ貰つた、麥飯と鷄卵如何に貴いものであらうか、說明する迄もなく若芽汁と麥飯を御馳走として居る人かゝる此食品を與ふとは實に非常な優遇で[illegible]は此の時一層感謝の念を深からしめたのである、別れの言葉は頗る簡單であるが輕薄漢の千言万語の挨拶よりも笑と無言の動作とは少なからぬ感情を與ふるものである、僕の感想は其れからくへと思ひを浮べる、隨分世の中のものは心にもない事を云つて人の歡心を拂ふ事に努める、特に教育なき丁稚上りのものに至りては氣障な事甚だし其れ等の徒をして此の朴純なる軍人に接せしめたら無言の裡に教化さるゝ事が出來やう、僕は常に宗教家等尊重すべきものは其等以外のものに見出して居る、例へば農夫の如き、勞働者の如き子供の如き彼等が心を欺かざる眞の自然心を服膺して居る時には云ふに云はれぬ感化力を有するものである、口に人道德義を說くも心を欺いて居れば百萬言も何の感化もない唯饒舌したと云ふのみ能辯と云ふ丈けである僕の考へは中々複雜になつて來る、今迄の徒歩に較れば其の難易は天壤の差である若しも最初から馬であつたならば此の馬上の安樂な事を知らず却つて馬の上は酷い等云ふ連中となつたであらうが幸にして馬の安樂な事を知つた時々頭を上げて山河の風致を眺めては唯獨り人知らぬ愉快を感じて嘻嘻の聲は漏らさずとも漏れるのである、幾度か笹川を渡り峠を越へ或は千仞の空谷をも通つて漸く五里許りの陰城郡に着いた。

●榮山浦附近水害狀況

去月二十日頃より陰鬱にして蒸し暑かりし天候は遂に二十五日に至り暴雨となり翌朝に至り止みしも榮山江は約七八尺の增水になり低地にある家屋は浸水したるも格別の被害を認めざりし然るに二十六日午後に至り天候再び險惡となり午後六時頃より暴風雨に變じ翌二十七日朝に至り止みたり榮山江の水量は二十七日午後には平水より增水すこと約九米突に及び商業販盛の地と埋立地を除くの外は悉く浸水し破損の家屋亦鮮からず避難者及商品荷物の運搬等非常に混雜を極めしを以て憲兵所にては所員凡て徹夜警戒保護勤務に從事せしめ幸に事なきを得たり榮山江附近廣大なる原野は一面に濁水汎亂して宛然一の湖水を變造せり耕作の損害程度は未だ知るを得ずと雖も水田は今や禾穗期なるを以て早稻は比較的被害多かるべく畑も亦陸稻大小豆煙草棉花其他一般の物一として其害を受けざるはなし流失家屋二、浸水破損家屋三十七、浸水十三、而して之が罹者は目下破損家屋の修繕其他復舊工事に着手中にあり一般に一時は全く日用品の缺乏[illegible]れ憲兵酒保にて品物の救助を爲め分割し與へたり

讀者文壇

●漫筆● 大庭生

△人は碧海白砂にと避け、宵山綠水にと隱る間もなく、何時しかに九十の榮茂の夏は滿ち足りてハヤ霜をく枯凋の秋ぞ來れり

△有爲轉變極まりなきは世上の常習なり、順潮至り逆水繞りて人は喜劇に誇り、悲劇に嘆すサテも浮世はステージなる哉

△人倫何者ぞ、金權何者ぞ、人多くは之に阿諛迎合して悶々たる也粒々辛苦一杯の晩酌に一家の笑を傾くる幸多きを知ずや

△文明は革命に待つ、革命の風雲天の一角より起り、志士仁人の熱血茲に凝つて、始て文明の曙光顯はる、起てよ革命の志士

△ヨボを化して善政美國の民となす、之日を旗印とせる國民の義務ぞ、咄—底事ぞ官民擧つてヨボ化せんとは主客轉倒も甚矣

△夫れ棒の意義を語らんか、辛棒の棒は細くて長く、泥棒の棒は太くて短しと、而も今の世の人、次第に後者を趁はんとす、怪

△道を說く者、德を稱へる者よ、先づ万民に活路を與へよ、然る後說け、古來釋迦や基督の水と空氣とのみに活けるを聞ざる也

（○文苑）

書懐寄在旅順某兄 孤山小史

慨然衣冠一年年。杯酒亦爲楊柳歎。豈婣今輕妙技。偏欣不此有手腕。扶歸病骨入家山。閑探行筐試改題。吁嗟乎市政經論近如何。夜夜夢繞江之畔。

寄懷

孤劍猶存正大氣。兒孫豈可許容喙。風雲不必迅蟄龍。日月有時逐冥晦。荊棘宦途步行難。羊腸失脚亦紛潰。信義襟地洽似妖。法政形骸其實廢。上既如斯下又然。孤心狠惜天地背。君不見戰餘俗兒何紛紛。掩鳥經過向可耐。今吾高踏是野人。偶然住今偶然退。固陋確執亦此胸。去就如意不相悖。稍稼稍調策誰所知。獨君與吾同嘆慨。添得暗中一點紅。痛論淋漓裂肝肺。吞雞友約共酒恁遲遲。却恐吾才力偶能百萬兵對。

歸臥偶成

君不見人生公直猶英雄奪劍。其身束縛其口箝。朝登暮退敢可厭。咳聲忽擧叩雀籠。依依諸命是隸。」曉吾十年弋宦海。斗米折腰何未悔。寸心萬里夢冥鴻。凄風慘雨形容改。」回首宦海推應芥。孤舟誰可能支之。遊洽競擧做上痴。道義人情日類敝。儒夫語言嬌軟各相欺。姦詐登用不然顯。又似莫耶持。寵冠顚倒我事了。携倫商租斎生涯。」起望西天暗雲遲。秋風復送別棧臭。萍蹤此味偏回看。成名小技愧樹陋。」今吾振袂何悠悠。鷄來稿放山棲。也無孤旅感羈愁。如英雄帶三人劍。狂花泥酒儘自由。

白蓮集

鈴川に走りの鮎や秋近し 櫻水
心澄みて水的は白し關井戶 三瓢
庭の井を土用に近く晒しけり 田柿
[illegible] [illegible]北
照りつけた草も背むや夏の月 同
一群の道者炎天を上りけり 同
炎天に過去物語る翁あり 櫻水
炎天や過ぎかてにする御門前 田柿
繪馬堂に汗ふく旅や蟬の聲 同
聽聞の椽の木立や蟬時雨 可醉



竿持つた兒の素足や蟬の聲 湖東
手弱女の海水浴に日傘かな 松花
朝ぼらけ山月高き青田かな 松花
小褄取る手をかくして日傘哉 可醉



（十二） 川合柳葉

山川はトロリとした眼を瞬り、

「ねゝツ、ではお前があの住江さんか……ムウ奇態な事もあるものだな、能々縁があつたのだね。」

と、今更の如くお君の顏をジツト眺める。

「アラ可厭ですよ、理由も聞かずに那樣に御覽なすつて、どうしたと有仰んです、早く理由を聞かして下さいな。」

とお君の辭は耳に入らぬ如く、

「フム到頭遣度に陷落しちやつたんだね。」

「アラ貴方、何を云つて被在るの、今更のやうに。」

「今更のやうぢやない、實に不思議なこともあるもんだ、まあ話して聞かすから聞くが可い。今から丁度五年以前の夏の初め、さうさ丁度今頃時分でもあつたらうか、さうさうシトシトと雨が降つて居たから確かに今時分だ、私が東京から京都に來る路すがら友人の紹介で靜岡の俳句の宗匠を尋ねた處が、能く訪ねて下れた、先づ當分は寛りと遊んで居れ、其中には君のために俳筵を開くなんと、非常に手篤い待遇を崇けて、急がぬ旅路ではあるし、云はるゝまゝに遊んで居ると、四五日經つてから私のために俳筵が開かれて、凡そ十五六人の俳句の[illegible]が寄集まつた、其の中で年の頃なら五十四五かとも思はるゝ品の宜い老人が、ツイ私の隣に坐つて居たが、私が東京と云ふので頻と私に東京の樣子を尋ねたり、女學校などの事を尋ねたりして、其日は其れなりに別れたが、翌日私を呼びに寄越して、是非遊びにと招待されたから、招かるゝまゝに往つて見ると、それが即ちお前のお父さんの笹野俊行さんだ。」

「ねゝツ。」

「マア〱靜にお聞き、私は必度俳句の話でも出るのだらうと思つてると、種々の御馳走が出て、一杯飲みながら話さるゝには實は私に住江と云ふ唯た一人の娘があつて東京へ出て勉强が爲たいと、日毎日のやうに促み立てるので、まだ十四の春を迎へたばかりだから、一人手放して出すのは不安心とは思ひましたが、あれほど喧しく云ふ樣だから、心配する程の事もあるまいと思ひ切つて去年の春東京に出しまして、なんでも東京でも餘程評判の宜いと云ふ、秀閨女學校と云ふに入りましたが、所が親の私から云ふ申すも可笑な話しですが、年は全く今年十五になつたのでございますが體が大きいので確かに十七位に見ゆる上に容貌が少しばかり垢拔て生れましたので、然う云ふ事が災禍の基になりましたものか、そこは判然致しませんが此春からと云ふものは、月に大低二本や三本は必ず寄越た手紙が、凧の糸でも切つたやうに、フツツリと來なくなりましたゆゑ、親と云ふものは馬鹿なもので、若や病氣にでもなつたんぢやあるまいかと一方ならず心配致して手紙を出して尋ねて遣ると、これまで下宿して居た家には居ないと云ふので、手紙は附箋をされて返つて來る、これは妙だと這度は學校へ宛て出して見るぞ、學校からも退校して居ないと云ふ附箋をして返して來る、全然行衛が分らないやうな有樣になりまして、早速私が[illegible]しかけられた。」



제59호 1908. 9. 11.

京城閑聞

仲秋の明月

月と人類との關係、月と植物との關係、此等は科學上の問題にして、余輩門外漢の知る處に非ず、之を詩的に觀ずれは月は天の人類に與ふる慰藉なり、或は無言の聖神と見るも可なり、亦經典なき宗教と見るも可ならずや、見ずや皓々たる明月の中空にかゝるとき、嚴然として月に對す、其莊嚴なる美に打たるゝと共に、心氣の爽快を覺へ、其間我心は天地と合し、邪念頓に去り物慾をはなれて塵界を去れるの思ひあり、茲に於てか王侯なく、奴僕なく、虚飾なく、罪惡なく、偽善なし、一切平等の聲は月光中より放たるゝが如くに感ずるなり、侏儒芭蕉は歌て曰く、「明月や池をめぐりて夜もす[illegible]美的崇拜心起りて、其絶景は池邊を去るに忍びず、人此時に於ては清淨無垢、月の光明に包まれて神の國に逍遙するなり、基督の像、釋迦の像に對するよりも崇高優美の感念起るに非ずや。

古來如何なる英雄豪傑と雖も、月に對して感慨せざるものなし、如何なる痴漢不具者と雖も、月に對して俗腸を洗はざるものなし、勇士が戰場の柵に倚りて月を眺めては其身の危難に超然として詩を賦すに非ずや世を捨てたる西行法師さへに、月に對しては頓に佛心起りて、かこち顏なるを歎じたるにあらずや、盲人塙檢校は無意識に月の美を感じ、其清光に憧れて、「花ならば障はりても見む今日の月」と吟唱せしにあらずや、彼は此瞬間に於て月に對する一種の崇拜心は絶頂に達すると共に俗事を困却し其心眼を以て月を見たるや必せり、平家の落武者が塵の浦に舟を浮べ矢叫の間に月に對して横笛を吹すさび悠々たるは何ぞや、等しく月の清美に打たれ其戰闘戰場の事を忘れて、知らず俗界に超然たるに至りしなり、嗚呼月は天が特に人類に與ふる偉大なる慰藉なりと云ふも敢て過言にあらざらん乎。

春夏秋冬、月の眺めは何れを好しとするか春の朧も可なり、夏の雲間より漏れる瞬間杜鵑の一聲更に可なり、晴澄だる寒月は凄美なり、最も崇嚴にして人の感を動すは仲秋の月なりとす、仲秋の明月は特に人類の俗腸を洗はんが爲に天の下せる靈光と云ふも可なり、一年三百六十五日、浮世の塵業に憧がれ、激甚なる名譽心に驅られ、野心小細工に熱中し、營々として維れ日も足らざるものは、殊更に此清高なる慰藉の必要あり、瞬間と雖も俗腸を一洗して人生に就て靜思默想するの必要あり、人生は唯營々として名利にのみ奔馳すべきものならんや時に名利以外に超然として遷的慰藉に浴せざる可らず、如斯にして社會の元氣は新鮮となりて活氣を帶び來るべし、仲秋の明月

は特さに其要求に向て天の降せる好商の訓示にわらずや

天皇陛下の稱

此頃邦人の口より[illegible]天皇陛下なる語の時に出つるを耳に[illegible]之何たる誤ちぞ、天皇とは乃ち「あま[illegible]らぎの」謂にして單に君主とか主權者[illegible]云ふ者とは異なるなり、我日本以外に[illegible]皇の無きこと及び朝鮮皇帝を天皇陛下[illegible]ぶべからさる事位は小學校にて良く教[illegible]て然るべしと存す如何に韓本位論者[illegible]氏を天皇陛下と呼ぶには贊成は爲し能[illegible]るべし如何。

暴徒の火の手

一体鎭定に歸した[illegible]傳へられたる暴徒の火の手は今や熾ん[illegible]方面に暴れり、草賊にても火賊にて[illegible]政賊にても彼等に附すべき名稱は何[illegible]良し、只望むところ[illegible]

敗亡瓦解

德川氏二百年太平[illegible]は黑船浦賀に現わるに及んで一朝に[illegible]られたり、伊藤統監三年の夢も官邊問[illegible]國議會に現わるるに及んで立ところ[illegible]るべし、敗亡瓦解其授一ならずと云[illegible]

東京電報

▲救恤金御下賜

新潟市の大火を[聞召]され　兩陛下より救恤金として千[illegible]賜さる

▲森林問題延期交渉

鴨綠江森林採伐[illegible]する交渉に付韓國側より徐總督の[illegible]歸る迄數日間の猶豫を乞ひ來れり

▲井侯其後の容体

井上侯の容体は[illegible]昏睡して食欲なく手足痙攣して[illegible]す經過不良なりと云ふ(以上九日發)

雜報

●貴婦人の參內

去る九日德壽宮に於ては万壽聖節の後祝としして各皇族各大臣並に重なる勅任官夫人等數十名を召[illegible]の饗應ありて終つて歌舞監二十餘名[illegible]たる苑內の舞臺に於て今回臨時設備[illegible]妓生五十名をして盛なる奏樂演舞を[illegible]め祝賀の遊興を催されたりと云ふ尚[illegible]間樂の趣旨により昌德宮に於て同一の[illegible]を催されたりと云ふ

●佛總領事證人出廷を諾す

國債報償金詐僞取[illegible]被告人梁起鐸の第二回公判に於て檢事[illegible]により裁判長は英國人ベッセル、コ[illegible]ラン及び佛國人マーテル並に仁川な[illegible]香港銀行代理店ホーリムリンガー商會[illegible]人の四人を次回の公判(本月十五日)に[illegible]として召喚するの決定を與へたるが此[illegible]は何れも外國人なるを以て其の召喚に[illegible]はベッセル、コールブラン、マーテ[illegible]三浦京城理事官より各當該國總領事に[illegible]ムリンガー商會支配人は信夫仁川理事官より夫れ／＼交渉中なりしが佛國總領事ベラン氏は昨日三浦理事官に對しマーテンを證人として韓國裁判所に出廷せしむべき事を承諾したる旨回答し來れりと云ふ因みにマーテンは西大門外なるホテルアストルハウスの主人にして本件に關してはベッセルより報償金の義捐金を借受け居る關係あるものなりと云ふ

●警察官の稅關監視兼務

韓國の交通機關の設備未だ完からざるの結果沿岸並に島嶼に於ける關稅警察の取締周到ならざるに乘じ密貿易船及び密漁船の出沒するもの亘多にして此れを防遏するは關稅警察上の急務にして關稅局にては目下各沿岸主要の地點に稅關監視署を增設する計畫あるも或個所は其の地方駐在所警察官吏に稅關監吏の職務を兼務せしむるを以て便宜とするものあり今回內部及び關稅局の商品交換の結果左の地に駐在する警察官は其の地の稅關監視の職務を兼務する事となせりと云ふ

京畿道中　江華、南陽
黃海道中　延安、康翎、瓮津
忠南道中　保寧、錦川
全北道中　萬頃
慶南道中　機張、鎭海、昆陽
慶北道中　寧海
全南道中　康津、光陽、興德、海南
平南道　炭浦

●境警視の視察談（續）

△定州の排日熱　定州は平壤に次ぐ大邑にして此の地の住民は今を距る百八十年前李朝に反抗したる歷史を有し今尙中央政府に對して快からざるものゝ如く殊に日本に對しては烈しき惡感を有せりと云ふ住民一般に政治に熱中し附近の鐵川、宣川、郭山龍城、嘉山等の地方輿論は此の地を中心とするものにして此の地方に盛んなる學生運動會は常に定州の廣野に會する由にて過日の運動會に排日主義の學校生徒の集り來る者千二百餘名此外に父兄の見物人を合せば五千人以上に達し此の時取締り旁々日本人巡查一名出張せしに生徒の一人巡查に對し敬禮をなしたるに此れを見たる他の生徒は大に憤慨し我等が如斯運動會を擧行するは彼等日本人を排斥するの豫備をなすものに非ずや然るに汝今日本人に對して敬禮をなすは國家的觀念なく敵愾の精神無きの致す處なりとて多數の生徒或は打ち或は蹴り遂に父兄の仲裁にて日本巡查を體操教師と見誤りたるなりと辯解して濟ませたりと以て此の地方に於ける排日熱を知るに足らん茲に滑稽なるは其當時日本巡查は韓語を解せず己れに敬禮したる一生徒が何のために毆打せらるゝにやと制止も得せで成行きを傍觀し居たるが偶々韓語を解し得る日本人の來會したるに事の次第を聞き得たるなりと云ふ

△トタン葺の新義州　新義州の名は日露戰役以來隨分世に聞へ鴨綠江岸の要地として其の盛況は豫て想像したる所なるが來て見れば左程にもなし新義州で市街は皆假小屋的のトタン葺家屋のみにて居留民は永住的の觀念無きやと疑はれ此の地の前途は悲觀せざるを得ざるべしと共に日本人は戰の花にて審實なる平和の商戰に適せざるかの感深かりき

△深川副理事の新義州觀　新義州理事廳なる深川副理事官は舊知の友なれば訪ねて地方狀況を聞く此の談中に曰く新義州は釜山が韓國の南門なるに對して其の北門なり南門より此の國に入るものは玄海の波濤を越ゆるの困難あれども北門よりするものは西比利亞滿州の鐵道を以て遠く歐州諸國に連るを以て此の國の世界的交通は此の地を以て重要なる門戶とす此の門戶の繁榮は此の國の繁榮を示すものなれば將來は南門釜山の經營と相對して此の地の盛大を圖らざる可らず又發達するの運命を有せりと語り居れり

△新義州の今昔　義州は古來所謂邊界七郡の統轄者として有爲なる府尹を選任せられたる所にして蓋し中央政府に遠かり政令充分に行屆かざるを以て府尹に有望の人物を選び中央の命令を待たずして國境の諸事件を處理せしめたるものなりされば市街は地方には稀なる瓦葺のみにて之か構造も大なるもの多く當時の盛況を偲ふに足るされども現今は日露役前千戶以上なりし市街今は僅かに三百戶を出でざる衰運を呈し居れり

●副統監と園藝場

曾禰副統監は一昨日午前九時官邸を出で東大門外なる纛村に至り趙農相中村農務局長等と共に農商工部の經營せる園藝模範場を視察したるが園藝に趣味を有せる副統監は久次米場長の案內にて果樹蔬菜園及び花卉類を詳細に視察し序でを以て同村に近き漢江の沿岸なる江原道より出でし薪の山積せる有樣などを視察し午後四時歸京せしが今同模範場の模樣を聞くに同場は果樹園蔬菜園の經營を主とし附帶事業として花卉類の栽殖を試みつゝあり果樹は葡萄、梨、林檎、桃等なるも結實の模樣良好にして歐羅巴種葡萄の如きは殊に好成績を示し蔬菜も茄子の各種、蕃茄、生薑、葱等繁殖頗る佳良にて茄子の如きは一顆の重量七百目に達せるものあり同場にては此等の果樹菜蔬の苗を仕立て一般の希望者に配付し以て此の國の果樹栽培蔬菜培養の發達を圖りつゝありと附帶事業たる花卉類も珍奇なる種類あり頗る見事に發育し人目を悅ばすに足るものあり何人にも觀覽を許すと云ふ

●韓國と葡萄栽培

歐羅巴種の葡萄栽培は從來日本に於て試驗せられたる所なるも雨量の關係上其の成績良好ならざりしが韓國に於ては其の好結果を得べき事は專門家の豫て想像したる處にして農商工部が經營せる纛村なる園藝模範場の試驗の結果によれば今年の如き此の國に於て稀なる雨量多かりしに拘らず極めて良好なる結果を得歐州種葡萄の栽培は韓國に於て頗る有望なるを證明し得たりと云ふ而して韓國に於ては各地方共葡萄の栽培に適當なる土地多く一面生食用としての販路少からず若し其の生產多額に上らば釀造用として支那及び日本に賣出す事は容易にして現に日本に於て毎年葡萄酒の輸入額四十萬圓以上にて今後生活程度の向上するに從ひて其の需要は漸次增加すべきは疑なきを以て日本に於て其の栽培に從事せる者は此の國に於て其の經營をなすは頗る有望なる事業なるべしと

●保安林編入に就て（續）

以上列記したる土地に對しては其必要を認めたるときは農商工部大臣は其國有の土地たると一個人の私有地たるとを問はず保安林に編入し以て特別の取扱ひをなすことを要す而して這回の保安林に編入されたる相城五部內の林地は其骨子とする處は前記第五號乃至第九號とに該當するを以て殊に其必要を感ずるものとす就中南山一体の林地の如きは其直接間接に公衆の衛生に必要なる將亦京城其ものゝ風致に偉大の關係を有する識者を待て後知るべきにあらざるなり然るに茲に一の疑問を生ずべきは國有の森林に就ては農商工部大臣の管理に屬するが故に其必要ある時は或は保安林に編入し或は之を解除する等隨意にして不可なきか如しと雖も其私有林に對しては之を保安林に編入し以て伐木を嚴禁し若しくは之を制限するが如きは即ち私權を侵害するものにして一見不當の處分なるが如きも之れぞ即ち森林法律の必要なる所以にして其執法者たる農商工部大臣に於て森林行政權の活動と云ふ可きなり尤も日本其他先進國に於ては私有林を保安林に編入する時は或は其土地の地租を免じ若くは森林收入の一部又は全部を補償するもののなきにあらずと雖ども我韓國保安林制度の上に於ては之等に對し何等規定なし之れ必竟韓國の森林に於ては確然私有林を以て目すべきもののなきと又私有林と稱するものは多少は墳墓の兆域に外ならざるべし純然たる施業地の絶無なると又は私有林地に對する地租の賦課なきとの因狀に照したる結果に外ならざるべし故に他日林業の進步發達をなし民衆の利益を制して國土の保安を維持せしむべからざる必要を生じたるときに以國家は之が補償の責に任ずべきは當然なるが故に隨て法律上又改廢を見るや明なり願くは一日も早く斯の如くならんことを希望して止まざるは獨り林政當事者のみにあらざるなり

●暴徒討伐情況

△忠淸南道靑陽憲兵分遣所の下士以下五名は九月一日洪州郡九峯山(靑陽北約二里)にて賊約二十を攻擊し其二を殪し二を捕ふ△忠淸南道洪州分遣所の下士以下七名は九月三日泰安郡內にて約三十の賊を攻擊し其八を殪す△黃海道鹽井院憲兵分遣所下士以下五名は同地守備隊步兵上等兵以下五名と協同し八月二十五日麼坪にて約四十の賊と衝突し其五を殪し銃器二其他雜品多數を鹵獲したり

●補助憲兵の出發

曩に採用せし補助憲兵五十名は十四日便船にて釜山より淸津に上陸し會寧地方に向ふべしといふ

●便所設置の諭告

漢城衛生會に於ては來る十六日より汚穢物掃除を實行することとなりたることは既報の如くなるが各警察署に於ては一昨日來各管轄內の韓人一同を召集し衛生上のことに就き懇々說き諭し最も急務なる便所の改造を實行する樣諭告しつゝありと云ふ

●來年度豫算編制終了

仁川商業會議所にては四十二年度豫算編制は愈々昨日終了したるが四十一年度分に比し歲入出共約八百圓餘の減少を見るに至りたりと

●港灣浚渫請願

仁川港灣浚渫の請願書は本年三月中宮木稅關長の手を經て其の筋に送達すべく提出し置きたりしに如何なる都合にや該請願書は未だ荒井次官の手許にさへ屆き居らず多分は宮木稅關長若しくは長濱關稅局長の手許にて握り潰しとせしに相違なきを確めたるを以て會議所にては直接荒井次官に面接の上更らに該請願書を提出することに決したり

●鐵道交換地委員會

本日午後七時より仁川民役所樓上に於て鐵道交換地委員會を開く筈

●鈴木技師の出張

農商工部鈴木技師は本日より雲山に出張す

●近藤春太郎氏の赴任

鐵道管理局西大門囑託醫近藤春太郎氏の太田に轉任を命せられたることは既報せし所なるが愈々明十二日一番列車にて家族引纒め赴任の途に上ると云ふ

●李容九の出發

李一進會長は崔總務岡本通譯を從へ昨朝八時三十分南大門發列車にて[illegible]日の途に就けるが宋內相及び多數の一進會員其他の見送人ありたり

公人私人

▲松岡則以(韓國產業株式會社取締役)　一昨夜出發
▲醫學博士荒木寅次郎(京都醫科大學長)　同上
▲安田不二丸(統監府技師)　一昨日入京巴城館
▲齋藤金結(參政課巡視部長)　同上天眞樓
▲林文太郎(平壤礦業所長)　同上

●近事片々

▲大內　代議士の副統監訪後の會見は甚だ良好官選不可の理由を充分に開陳したるに
▲副統　監は目下伊藤統監と交渉中なるが故に總て次第何分の回答すべしと云はるゝと
▲依是　觀之曾禰子の荒からぬ鼻息も大分たまりしが如し解決の目も遠くは非じ
▲朴泳　孝部下の腹心を漢城に派して政社組織を計企しめ大に畫策する所ありと
▲此說　事實ならば朴氏も余程感にかへりたり朴氏の時代は既に過ぎ去る反省肝要也
▲小野　心を燃して政社運動杯今更企てゝ何とする亦是迄の失敗を繰返すに過ぎざる也
▲濟州　島の開拓でもして靜に精神を錬磨するに若かず最早裂褪を出しても駄目也
▲東拓　副總裁の蹶起運動尙は止まざるとは倚々厄介千萬なるヨボ共成佛の方なき乎
▲李允　用迄が蹶起運動をなすとは呆れ果てたる次第なる言語道斷茲が則韓人根性乎
▲上海　にて日本士官と英國巡查の爭闘を誇大に捏造して日英間を離間せんとは滑稽
▲歐米　人には兎角奔飛の物好きありて斯る猪口才を働く者あり困つた腕白供に[illegible]る
▲支那　人は煽動されるかも知らぬが日英人士は斯る兒戲の小細工に乘せられはせぬ
▲間島　問題は伊集院公使赴任の上談判を始ると小村外相伊集院公使の腕揃ひは頼もし
▲淸國　に於ける小村の聲望と尤も支那通の伊集院能ふに快刀一擲局目必ず一變せん
▲韓海　に於ける支那の密漁船は約三四千人員三萬人其漁獲高意外に莫大なりと云ふ
▲如何　に出沒自在なりと雖も取締の方法を得れば之を制裁する決して難きにあらず
▲韓國　統監府の吏員等は豪奢淫蕩の風盛にして國威に關する擧動ありとて世論囂々
▲韓國　に於ける日本官吏は如何諸般都督府に比して遜色なしとの評は當れるや否や
▲料理　店の上得意は一に官吏二に銀行員也と官吏萬能は茶屋小屋迄に波及せるなり
▲英國　グラスゴーに社會主義者の團隊騷擾現亂暴なる擧動あり英國にも亦此事ある乎
▲獨逸　政府がクルップ會社に命じて作りし所の空中水雷は頗る恐るべき者なりと云ふ
▲駐米　大使館書記官埴原氏出仕の途中乘人の乘れる馬車馬荒れ廻はるを押へて止む
▲其際　悍馬に蹴られ負傷すヘラルド逸早く紙上に掲げて其勇氣と俠氣とを激賞すと
▲埴原　氏美男にして貴公子然たり滿都のレディ[illegible]來る艷福一身に集る

京城居留民團公文

正誤 明治四十一年九月九日京城居留民團給與規則第七條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ脫ス

勤續中特別ノ功勞アル民團吏員ニハ特ニ居留民會ノ決議ヲ經テ前項ノ給與額ヲ增加スルコトヲ得

●二百二十日の前象

（十日京城測候所報）

今朝午前六時日本各地及滿韓各地の觀測に徵すれば高壓部位は本州中部に存し及び日本海北部より北海道方面に擴張せり更に低壓部位は沖繩附近にあり今北東に轉行しつゝ[illegible]して州南諸島及二三の岬角島嶼は風力强風以上に達したる所あるも其他には著るしき暴風雨を認めず或は支那東海に淺薄なる低氣壓の出顯すること無きを保し難きも多分二百二十日は一般に平穩に經過するなるべし

●龍山大火餘聞

一昨日龍山の大火は前號に詳記せし通りなるが其後聞く所に依れば▲出火の原因はベンキにあらずベンキに混ずべき桐油を融解する際油鑵破裂したる爲め斯る大事を惹起したるものなりと▲竹原重吉の娘芳子が燒死したるは上田方の三階を借り居る井上彌次郎方に來り餘念なく遊び居りし際火は非常の勢を以て燃へ上りたれば井上は漸く自分の子を抱き身を以て免がれたるも芳子を救ふに暇なかりし爲め慘死を遂げたるものなりしと云ふ▲其後罹災者への寄附は十圓三木熊之助同松村泰輔同龍山病院同高橋重之助岩田次郎二十圓龍山遊廓組合五圓松原喜藏同北川重吉同依田文吉三圓藏重松次郎▲消防組へ北川重吉より五圓▲總損害額三萬圓なりと云ふ

●暴徒捕縛

住所不定金炳鉉（四十）は數月前京畿道楊州郡へ砂糖の行商に出掛けたるが當時楊州附近は賊徒至る處に橫行し物騷を極め彼處の人家にも賊の爲め掠奪され居たり此處にては殺されたりなどの噂さ絕間なかりしが其れとも知らぬ金は郡内へ入り込みたるに賊の爲めに捕はれ日本の密偵ならん若しそうでなくば仲間に加はるべしと責められたれば金は遂に其群に投じて暴徒となりて所々を徘徊して良民を苦め居たりしが然るに其仲間なる朴環香なるもの此程歸順して京城にありたるが去る八日の夜圖らずも金が乘硯を徘徊し居るを認め此旨同派出所に注進したるより同派出所の巡査出張し直ちに捕縛して西部警察署に引致し審問中なりしが昨日正午警視廳へ護送されたり

●早く歸つて孝行せよ

愛媛縣松山市宮古町本岡れ京（二二）といふ女はまだ肩上げの取れたばかりの十八年生れ故郷を出で韓國に來り釜山、仁川、鎭南浦等の飲食店や曖昧屋を渡り歩き持ち物の切賣りをなし故郷の母親には一文の仕送りもせず我儘の仕放題をなし盡し近頃當地に來り明治町二丁目の敷島樓に腰を据へたるも思ふ樣に面白きこともなかつたと見へ水標橋通り一丁目飲食店中原末次郎方に鞍替へし不相變拂はず情の安賣りし居り母親に對しては不孝のみ働けるも母親は又た不孝の子より可愛いものはなく未だ年齒もゆかぬ女の身として旅の空にありて如何して暮し居るか病氣でもしまいかと娘の身の上を氣遣ひ一日も早く歸國して生ひ先き短き母を安心さして呉れと京に宛て度々手紙を出せど腐れ切つた[illegible]京はいつかな歸る心もなけ[illegible]母親は已を得ず警察署に宛て書面にて歸國する樣說諭なし下されと願ひ出たれば銅峴分署にては昨日れ京を呼び出し母よりの願ひの趣を呉々も說き聞け今日迄の不心得を叱りて一刻も早く歸りて便り少き老母を慰め安心さすべしと懇ろに說諭されたるがたゞ京たるもの人喰ふ鬼の住む京城に居るよりも早く歸國して老母を慰め孝養を盡すべきものなり

●强盜捕縛

西部館井洞居住趙奉先（二六）は去月頃より京畿忠淸の各地に於て自ら暴徒の仲間なりと稱し强盜を働き金品を掠奪したるものなるが去る五日午後六時其筋の手に捕はれたり

●醉漢仲裁人に毆らる

龍山に其名ありと而く姉妹氷屋の妹にれ何さ云ふ愛嬌溢るゝ計りの別嬪あり姉は不幸にも病魔の襲ふところとなり起居も自由ならず居りしが近頃は時節柄氷屋も餘りに急がしからざる處から妹のれ何一人店に出ばり嫖客を綾なし居りしが去る八日の夜九時頃福島生れの栗林某（三八）と云ふが此の涼しいのに洒落てもしない涼みでござると鼻歌唄ひながら氷屋の別嬪に向ひ手取り足取り今にも風俗壞亂に及ばんとせしよりれ何は驚き裏手に逃げ行きたるを栗林は其後を追かけ引取らへ今度は何んでもなき事をれ前が逃げたばかりに此んなに人が集り俺れに恥をかゝせたから俺れの事をウンと云つて聞げばよし聞かざる時は恥をかゝせた謝罪をしろと口說き立てたるもれ何は頑として聞き入れず表に飛び出し人の救を乞ひたるに男は益々怒りて大聲を揚げ暴言を吐くのみならず店の器物に當り散らすより集りし人も見るに見兼ねて中裁せしも却々聞かばこそ却つて勢ひを增して大亂暴を働き手も附けられぬ有樣を仲裁人に面倒なりとポカリ鐵拳をれ見舞申されて靑くなり初めの勢ひ何處へやら毆つた人の居なくなつて後再び氷やに至り下駄を片手に眞裸体となり土地平にあぐらを搔て廻らぬレイ／＼舌で啖呵を切り初めたるも巡廻の巡査が先の方に見ら

●亂暴なる酒客

旭町一丁目何々社出張所員蛇谷某外一名の兩人は一昨夜十時頃より本町裏通一丁目浪花樓上に押し上り酒肴を命じて盛んに氣焰を吐き居りしが軈て醉のダン／＼廻るにつれて二人とも持ち前の醉狂を始め大きな聲で譏詫を並べ揚句が定りの皿小鉢を投げつけて何も彼も破壞し大亂暴を演せしより結局警官の厄介となり以後は注意せよとの聲諸共に引き下り

●橫着なる雇人

本町五丁目松尾牛肉店雇人山口大助（十九）は一昨日夕刻犬を連れて本町四丁目を通り掛りしに其の際右の犬が南大門外松永九八方小副川卯三郎の裾を咬み破りたりしかば大助は其の場で謝罪らねばならぬ筈なるに何とも言はずに通り過ぎんとせしより松永は立腹し其の旨南部警察署へ訴へ出でたるが大助は散々に叱られて引き下りたり

●醉狂ヨボ

青橋居住韓弘石なるものは一昨夜八時頃同地に鷄卵を賣れる日本人の店先きにて酒に醉ひ亂暴を働き居りしを銅峴分署へ引致し醉の醒める迄留置し說諭の上放還

●小町と三川

一昨夜は一天雲なく十三夜の月は玲瓏として中天に掛りて鏡の如く淸く照りて冷からず冷かならずといふれ誂へ向きの氣候ので歌舞の菩薩にあらぬ人を誑す狐の住居へる新町に浮かれ出たるノラクラ者の多かりし中に大和田とか云ふ遊び人と釜山まで駈落して引戻されて世間に恥面を晒したる皆春樓の小町の色香に天から降りて繁々通ひ來る男あり姓を吉川と云ふか此吉川一夜でも小町の顔を見ねば寢つかれぬと云ふ熱心にて金があらうがあるまいが一夜に一度は皆春樓の格子より小町の顔を覗かねば氣が濟まぬと一昨夜も例の通り澄み渡る月にあこがれ新町に浮かれ行き皆春樓の格子より小町を呼び出し門前にて月を眺めながら痴話繰り居る所に來りしは吉川の友達なる小川西川と云ふ二人にて此處に端なくも三川集りたれば小町の喜び一方ならずホン川と云ふ字は妾し大好きよと歌で川と云ふ字に疑て見たいと書いてある妾し吉川さんも小川さんも西川さんも大好きその好きの三川が揃ひも揃ふてれ友達だわなど、大に痴話繰り果て三川と小町とが人目を憚からず巫山戯る狀は見られた樣でなかつたどの投書をかくの如し

●新町だより

山遊樓は樓主が大奮發にて擴張を計る由にて其小手調べとして此程二人の新妓を抱へたが一人は左團次一人は讃子と名乘らせた兩妓どもまだ素人との觸れ込みなれどそんな代物にはあらずと評判なり又同樓の小奴は病氣も近々全快するうだが誤親類筋はれ待兼のことだらう▲第一樓本店の花町といふキイ／＼女郎は病氣にて入院後稍や快方に向ひ近日退院するど云ふ段に至り脚氣病發して大分重いとは氣の毒のことだ▲滑月の鹿の子は壽町の高井病院にて療養中の所先日退院したのでソン[illegible]したといつて居る▲南山樓の淸次は同樓隨一のハイカラで店張の中脇息に凭れて小說か何かを見て居る氣障さ加減つたらない見た計りでも嘔吐が出るとは岡燒連の惡口ばかりでもない▲第一本店のチエーリーはイングリシユの明るい人が來ぬとかで大機嫌いで居る（雀）

●韓人の靴ドロ

龍山の人夫組合の李昌淳（三十）は一昨々日明治町三丁目製靴商德廣馬城郎方店頭に並列されたる靴一足を攫つ

一口噺

巡査「戶籍調に來りモシ／＼變りは無いか子」周章て男裸体で蚊帳をして居りしが急いで飛び起き「警官ですか コレは／＼裸体の儘で……」

拂ひ一目散に逃げんとするを家人に發見されれ追かけられ一寸橫町へ折れ韓人某の軒下に潜み込みたる▲直に衆人の見出す處となり銅峴分署へ突き出されて其儘留置さる

●韓國の盂會

昨日は陰曆八月十五日にて韓國に於て此日を以て盂會を修すれば各門外に墓地を有する韓人は何れも夕刻より其墓所に詣で供物をなして其靈を祭り哀哭するの例なれば彙て墓地は本夜に限り最と賑やかなりし

●木村猛夫一座乘込

一昨日より開演する筈なりし木村猛夫一座は出發延引し漸く一昨日午後八時三十分南大門着にて乘り込みたれば愈よ本日晚より壽座に於て開演することゝなり昨日は各新聞社等を訪問し着京の挨拶をなせり尙ほ本晚の藝題は「茨御殿」なりと

●白蓮花女史より取消（續）

九月四日第五十三號同面莫蓮花と題する記事中小身に關する事是れ亦事實相違同九月五日五十四號同面同記事中小身に關する記事も全然事實無根小身は韓國側女學校に敎師たるの職掌柄より餘儀なくして生徒の父兄と普通の交誼あるの外には斷じて是れ以上の關係無之候

（附記）小身の渡韓の目的及事情を從に聊か陳述して世の誤解を和け申度候蓋は實父の往時陸軍在職中二十七八年日淸の戰役に從軍し平壤城前面攻擊一部の大隊長として陣頭に走せ加はり苦戰を重ね左脚を失ひたる此退職を餘儀なくせしめ戰の友たりし一韓國武官にして厚意深き人（目下某壁の觀察使）の族姪に當れる（前陸軍參領之職にありし）某氏が女學校を企てんとして日本の女敎師を求めんとて叔父たる人より小身が實父に紹介ありし時亡夫の一族親族一同の贊同によりて所天戰死後の寡婦處世の道としては敎育が最適當の行路と信じて本年一月渡韓致し申候かくて同校設置計畫中前記同德女子義塾長の要求ありしにより同塾にいさゝか敎鞭をとりつゝ有之候以後前記の學校の設置をまちて微力を盡さんと期待しつゝあるものに御座候故他に家庭敎師に雇はれて乘り込むとか下女奉公に雇はるゝ等の事斷じて無之候而して渡韓の目的は前述の通りに御座候得共小身の或は人格品性に於て神聖なるべき敎育の任になつさわるべき器にあらずとの老婆心からの忠告かはぞんじ申さねども陵園の配妾が月に兔をかこち故事もしのばれて配所の月故なくして見る悲みそゞ何たる事實のゆきちがひにや女性のさすがに怨歌の聲に斷腸の思やる瀨なく候哀れ貧弱の身渡韓唯一の目的も世の誤解に葬られて我赤心の所謂浮世の昏迷せる罪惡の過底に投せられ自然と罪人視せらるゝ餘儀なくせられ切角の渡韓の目的も反面的に破壞せらるゝを杞憂痛恨の情に堪ざるを如何せん希くは以後に於て小身に關する記事の御揭載の際は何卒公正明大なる御判斷を下されて貧弱なる一寡婦の衷心を展開して成功の域に達せしむべく淸き同情の淚を分ち給はん事を餘事は憐察せられ給ひね草々謹言

明治四十一年九月七日 菅野能武

京城新聞社御中



●天氣豫報（自十日午後六時 至十一日午後六時）

東の風晴後ち曇り

十日午前六時各地氣象概況、南部は北東風吹き其他は一般に靜穩にして時々曇相半せり

富本半平の身上（三）

そう斯うする中日は暮れる座敷が聘つて來ても大儀だといつて斷つて仕舞う何が何だか只もうだらしなく時が經ちトウ〳〵手前も其家へ泊る樣なハメになつちまいましたイヽエ安く無いのなんのてソンナ譯のもんぢやありません實の所犧牲に上げられた樣な譯でムいます

明朝になると顏を洗ふか洗はないにもう酒で例の通りグビリ〳〵とあをりつけるのです手前もホト〳〵閉口して居る矢先に黑の姉さんだといふ女がやつて參りましたが此れが又黑に劣らぬ大酒飲で手前などへの挨拶なぞはからッきしソコ〳〵で此れや始まつてるのだ手前挨拶宜い所へ來合せたもんだドレ妾も此れ仲間入をさせて貰いましようかといふんで直ぐ杯に手を出す仕末女猩々二人に右と左から攻め立てられる手前の苦さといふものはありません眞正の話が泣きたくなりましたするうち表に人が來た樣な氣配が致しましたので黑が立つてつて用を濟ませて元の座に立ち歸ると又人です今度は姉さんが立つて往つて座に返ると追つ掛けて又人が來るといふ工合で夫れがひッ切り無しなんですから五月蠅うムいます仕舞ひには二人共隣つて來て大儀になつたと見わて下で人の聲がするのを聞きつけるさ二階から顏を出して今日は駄目だよなんかんと大聲でギメつけるのです手前も餘程變に思ひましたから何ですと尋ねて見ると恐れるぢやアありませんか來る奴も〳〵も皆借金取なんですから此れぢやア賴んだ金策一件も餘り當にならないと考へ手前は急に悄ぎ込んぢまいました手前の悄ぎ込んだのを見て黑は如何も我家ぢやア人ばかり來て五月蠅から何處か近所の靜な家へ往つて飲み直しましようと立ち上る手前はもう酒は澤山だから夫れには及ばない夫れよりは昨日お賴み申した一件を早くして頂きたいもんだがと催促するとそう〳〵そうでしたッけすつかり忘れて居ました……夫にしても今ツから掛へて來る間がありますから其うち此家ではやりきれませんや萬事妾に委せて置きよと如何しても何家かへ往かねば納まらぬ事になりトウ〳〵竹敷といふ待合に連れ込まれちまいました

宜うムいますつて大よしでさアざ事もなげに請け込んだ位のですから無論夫れ位の金は我家にある事と思ひの外此れから掛へに往くと聞て愈々手前は力を落し竹敷に腰を下してもナカ〳〵氣が引き立ちませんが黑はカラッキシ無頓着で相變らずよく飲んでは手前の御機嫌なんです餘りの事と手前は少々中ッ腹になりましたが夫れでは此れから金吹きに出掛けて來ますからお前さん何處へも出掛けないで待つてゝ下さいナ濱町までゞすから二時間も經ちやア歸つて來られますアと勢ひ善く立ち上りました。

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月前金貳圓▲郵税一ケ月金拾參錢

●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲二號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎

印刷人 高木久馬太

發行所 京城西大門通 京城新聞社 電話六六三番